



東北防衛局広報紙
(東北6県の防衛に関する情報誌)

東北の **かなめ**

vol. 22

2013.3.25



● Misawa 長芋スティックアイスホッケー



発泡スチロール製のスティックとパッツ

—東北防衛局主催—
二つの日米交流事業を開催



● ひな祭り in TOHOKU town



特集：日米共同方面隊指揮所演習

- ・ 日米交流事業
- ・ 沖縄県道104号線越え実弾射撃移転訓練
- ・ 三沢市農産物加工施設が完成
- ・ 第6師団庁舎が完成
- ・ 防衛省の移転措置事業による移転者の皆様へ
- ・ インフォメーション



がんばろう!東北



防衛省東北防衛局編集委員会編集発行
宮城県仙台市宮城野区五輪1丁目3-15
Tel 022-297-8208
ホームページ <http://www.mod.go.jp/rdb/tohoku/>

特集

平成24年度

日米共同方面隊指揮所演習



東北防衛局もYS-63へ参加



平成24年度日米共同方面隊指揮所演習が陸上自衛隊東北方面隊仙台駐屯地において、5年ぶりに行われ、東北防衛局は、米軍の受け入れに伴う土地の提供等、所要の手続きを演練しました。

△ 指揮所演習開会式のセレモニー

指揮所演習 (YS-63) の概要

平成24年11月26日から同年12月13日までの間、宮城県仙台市に所在する陸上自衛隊東北方面隊仙台駐屯地において、日



△ 戦闘予行準備

米共同方面隊指揮所演習 (YS-63) が行われました。仮想の状況を想定し、

YS-63とは？

自衛隊と米軍との共同訓練は、仮想の状況を設定し、その中で指揮官の判断力や幕僚の調整能力の向上などを目的とする指揮所演習と演習場や訓練海空域などで、実際に部隊を活動させることにより、日米間の連携要領全般の向上などを目的とする実動訓練に分けられます。この日米共同方面隊指揮所演習は前者にあたり、陸上自衛隊と米陸上部隊がそれぞれの指揮系統に従って行う各種活動をコンピュータ上で訓練するものです。

本演習は、昭和57年から63回目となり、東北方面隊として5年ぶり8回目となります。

YSの名前の由来

YS (Yama Sakura) の名前の由来は、在日米陸軍の部隊章にあしらわれている「富士山 (ヤマ)」と陸上自衛隊シンボルの桜 (サクラ) を合わせたものです。

他局から研修

今回のYS-63に、他の防衛局から多くの職員が研修に訪れました。



YS-63のロゴマーク



ロゴマークは、日米両国の友好と団結の「和」を象徴する円形を採用し、中央の図柄は、日本海と太平洋の青海と東北六県を同色で表現しています。

伊達政宗由来の兜の前立て「三日月」を二重に重ねて「Y」の文字を表すとともに、今年の干支である「龍 (青龍)」をもって「S」の文字を表し、あわせて「YS」の文字を表現しています。

東北防衛局が訓練参加

演練場面の設定の3点を重点項目に掲げて行われました。

東北防衛局は、企画・運用班など4班で構成された演習防衛局対策本部を同駐屯地内に設置し、局の要員約70名が自衛隊員と同じ24時間交代制で演習に参加。必要に応じ行われる米軍の要求に対し、武力攻撃事態等における米軍行動関連措置法等の関係法令に従い、米軍の受け入れに伴う土地の提供のほか、当該措置に係る所要の手続き等を実施するなど武力攻撃事態等への対処業務を効果的に



△ 日米演練の様子



△ 東北防衛局の活動状況

今回の演習参加部隊等は、統裁官を務める米太平洋陸軍司令官フランシス・J・ワシンスキー陸軍中將をはじめ米陸軍・米海兵隊から約1500名が参加し、また、日本側からは、東北方面総監の田中敏明陸将を統裁官に、東北方面隊の隷下部隊と東北防衛局から約4500名の隊員が参加しました。
演習は、①実践的な編成、②リアリティを追求した演習構成、③「米軍の受入」と「国民保護措置等」を加えた現実的な

演練しました。
当局では、日米会議に参加して早くから演習概要等を確認するとともに、7月にハワイで開催された初期・中期計画会議では、東北防衛局の組織と役割について説明し、米軍が要望する土地の提供などの調整を行い、10月の最終計画会議では米軍担当者や局担当者が業務支援内容について最終合意し、演習本番に臨みました。
演習終了後は、日米合同士官等慰労会が開催され、米太平洋陸軍司令官フランシス・J・ワシンスキー陸軍中將から東北防衛局の野中文勝企画部長に演習への支援と献身に感謝を表す楯が贈られました。



△ YS慰労会における感謝の楯贈呈

—沖縄県道104号線越え実弾射撃移転訓練—

王城寺原演習場で2年ぶり



△ 地方自治体及び報道機関に対する訓練公開

平成25年2月18日から25日までの間、陸上自衛隊王城寺原演習場（宮城県加美郡色麻町、黒川郡大和町及び大衡村）において、在沖米海兵隊による15.5ミリ榴弾砲等の実弾射撃移転訓練が約2年ぶり、東日本大震災後初めて実施されました。

今回で10回目となる同訓練には、第3海兵師団第12海兵連隊第3大隊の砲兵中隊の隊員約250名が参加して行われました。

東北防衛局は、米海兵隊が到着した2月11日から帰沖した3月4日までの間、同演習場内に現地連絡本部を設置し、局職員が交替で常駐するなどして、24時間体制で同移転訓練の円滑な実施、地元自治体等への円滑かつタイムリーな情報提供等を行いました。

実弾射撃移転訓練



△ 仙台港からの車両輸送



△ あさいな学園での交流の様子



△ 現地連絡本部内の勤務状況

射撃訓練終了後、米海兵隊員は、3月1日及び2日の二日間、地域への貢献や交流活動の一環として、地元三町村の施設等を訪問し、子供達へのおもちゃ贈呈等を行うなどして交流を行いました。

大和町の「あさいな学園（知的障害者入所更正施設）」等を訪れた際には、入所者と一緒に歌を歌ったり、ボールや綱引きゲーム、さらに、人形やおもちゃをプレゼントして交流を深めました。

地方協力確保事務

日米交流事業

東北防衛局は、防衛政策等に対する国民のより幅広い層への理解増進を図るため、日米交流事業を実施しており、今回は三沢市及び東北町で行った2つの交流事業を紹介します。

Misawa長芋スティックアイスホッケー

平成25年2月16日、東北防衛局は、青森県三沢市の三沢アイスアリーナにおいて、三沢市内の児童と三沢米軍基地内の児童を対象とした日米交流事業「Misawa長芋スティックアイスホッケー」を開催しました。



△ 元気に宣誓する選手代表



△ ゴール前で奮闘する様子

がら、長靴を履いてアイスホッケーを行いました。

つるつる滑る足下で転倒しながらも、長芋のような太いスティックで、不規則な動きをするホッキ貝型パックを追いかける児童の姿に、観客席の父母らから熱い声援が送られ、会場は大いに盛り上がりました。

優勝したのは、岡三沢ホッケースポーツ少年団Aチーム。昼食後には、じゃんけんゲームなどのレクリエーションで更に交流を深めました。

ひな祭り in TOHOKU town

平成25年2月23日、東北防衛局は、青森県上北郡東北町の小川原湖交流センター「宝湖館」において、東北町内の児童と三沢米軍基地内の児童及びその保護者を対象とした日米交流事業「ひな祭り in TOHOKU town」を開催しました。

東北町での日米交流事業は、平成20年度に実施した「ホームビジット&食文化交流」以来2回目で、日米の親子約70名が参加し、日本の伝統行事のひな祭りでの交流を深めました。

子供たちが押絵型のひな人形作りに挑戦する一方で、保護者たちは東北町の特産品を使用した料理体験を行いました。



△ 手作りひな人形を披露

会場では六段ひな壇飾りの装飾のほか、琴の生演奏や餅つきも行われ、日本文化に触れた三沢基地からの参加者らは「ビューティフル」とカメラのシャッターを押していました。

最後に「ありがとうございました。」とても楽しかった。」など日米双方の子供たちから感想が聞かれました。



△ 参加者全員で記念撮影



△ 保護者たちが作ったひな祭り料理

防衛省の移転措置事業による移転者の皆様へ

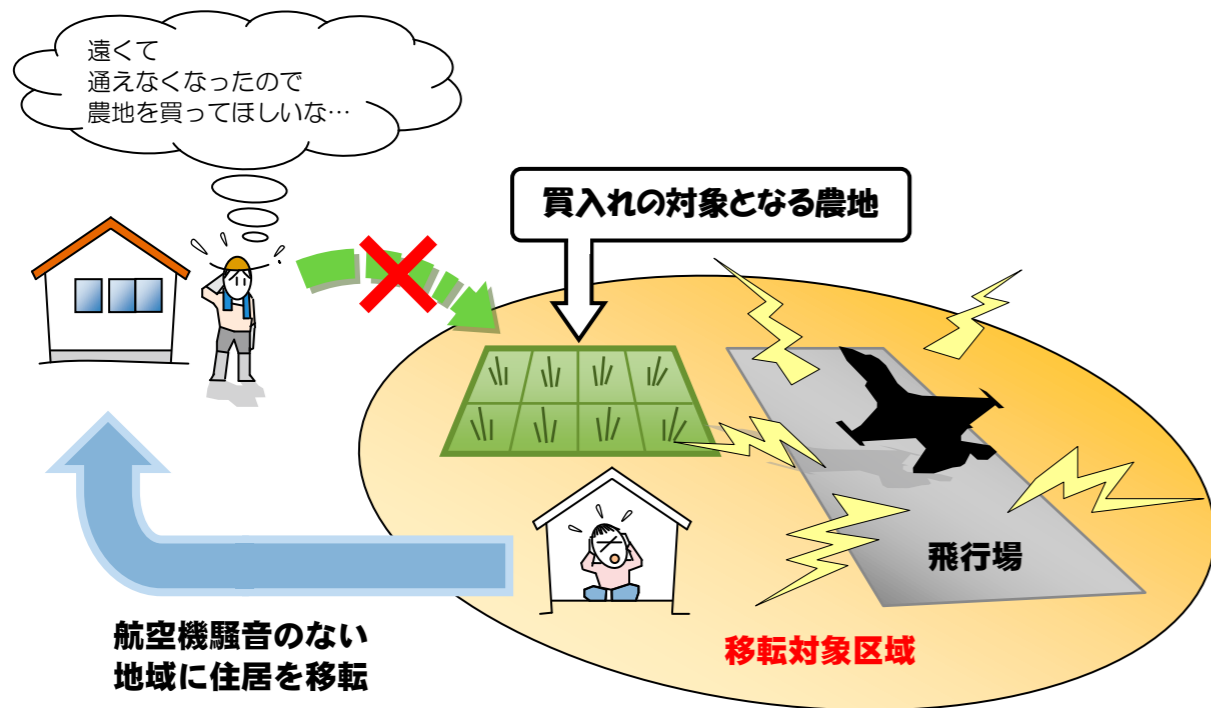
東北防衛局の移転措置事業（三沢対地射爆撃場、三沢飛行場、八戸飛行場、松島飛行場及び王城寺原演習場周辺）において、建物等の補償を受けた方を対象に実施している附帯農地等の買入れについて、希望届の受付期限が次のとおりとなりました。

平成24年12月19日より前に建物等の移転等補償契約を締結された方は

平成29年12月19日まで

平成24年12月19日以降に建物等の移転等補償契約を締結された方は

契約締結日の翌日から5年を経過する日まで



問い合わせ先：仙台市宮城野区五輪1丁目3-15
 東北防衛局 企画部 防音対策課 移転措置係
 TEL 022-297-8216

三沢市農産物加工施設が完成

―青森県三沢市の「地産地消」を促進―



△ 完成した農産物加工施設



△ 農産物加工施設1階の調理室

平成25年1月11日、青森県三沢市に建設中の「農産物加工施設」の完成を祝し、種市一正三沢市長はじめ、建設工事等関係者など多数参加の下、同施設の落成式が行われました。

「農産物加工施設」は、三沢市が防衛施設周辺民生安定施設整備事業及び特定防衛施設周辺整備調整交付金事業として整備を進めていたもので、地元農産物の消費拡大と農業者の生産意欲の向上を図り「地産地消」をより一層推進することが期待されています。総事業費約

14億8500万円、そのうち防衛省からの補助が約8億5500万円。平成24年12月に完成しました。

建物は、鉄骨造2階建て、延べ床面積約2350㎡。1階は調理室、野菜下処理室、炊飯室、洗浄室などで構成され、地産加工研究室と調理実習室兼試食室を併設します。2階は1階の調理室をガラス越しに見学できる会議室やホールなどで構成されています。地産加工研究室などは、市民団体などが利用できます。



△ 完成した第6師団庁舎



△ 落成記念テープカット

平成24年12月26日、山形県東根市に所在する陸上自衛隊神町駐屯地に建設中の第6師団司令部新庁舎が完成しました。

本事業は、老朽化が著しい旧師団司令部庁舎に替わり鉄筋コンクリート造3階建延べ床面積約5550㎡の庁舎を整備するものであり、平成23年3月に建築その他工事、電気その他工事及び機械工事を発注しましたが、3月11日の東日本大震災の影響で当初完成時期より遅れて工事が完了しました。

第6師団は、南東北3県（山形県、宮

城県及び福島県）の防衛警備・災害派遣などを任務としている師団で、今年、師団創立51周年を迎え1月25日、新庁舎の安全使用と使用部隊の更なる飛躍を祈念して「第6師団司令部新庁舎落成式」を実施しました。

時折、雪の舞う中で執り行われた落成式には、隷下部隊長等が参列するとともに歴代師団長、土田正剛東根市長、部外協力団体の会長等を招待し、式典及びテープカット等を行い完成を祝いました。

第6師団庁舎が完成

―半世紀を記念して次の百周年へ―

— 平成24年度の新規採用職員に聞きました —

東北防衛局職員に採用となって



昨年4月の新規採用者を代表して2名の職員に、東北防衛局の職場としての魅力や楽しさを聞きました。

私は土木課に配属になり、土木工事の監督や積算業務に携わっています。工事監督官として様々な現場を持つことで、専門的な知識を幅広く得ることができます。忙しいですが充実した日々を送っています。



土木課 田中技官

私が配属された調達計画課は建築、土木、機械、電気といった各専門分野の職員で構成されているため、複数の職種の知識を学ぶことができます。職場は業務以外のことも気軽に相談できるアットホームな環境です。



調達計画課 松下技官



防衛省では、平成24年度から人事院で行う国家公務員採用試験の合格者から職員を採用しています。

国家公務員採用試験については、人事院のホームページを参照してください。

なお、「語学」及び「国際関係」の試験区分については引き続き防衛省が行う防衛省専門職員採用試験の合格者から採用を行っています。

詳細な日程等については防衛省ホームページを参照してください。



東北の主な自衛隊広報行事

自衛隊（東北管内）が今後予定している主な広報行事等は次のとおりです。是非、見に来てください。

	開催日	イベント名	開催場所	問い合わせ先
4月	陸 4月14日(日)	船岡駐屯地創立54周年・第2施設団創隊52周年記念行事	船岡駐屯地(柴田町)	船岡駐屯地司令職務室 0224-55-2301(211)
	陸 4月20日(土)	仙台駐屯地創立記念行事	仙台駐屯地(仙台市)	仙台駐屯地広報室 022-231-1111(3662)
	陸 4月21日(日)	弘前駐屯地創立45周年記念日行事	弘前駐屯地(弘前市)	弘前駐屯地広報室 0178-87-2111(205)
	陸 4月21日(日)	霞目駐屯地創立56周年記念行事	霞目駐屯地(仙台市)	霞目駐屯地広報室 022-286-3101(301)
	陸 4月21日(日)	郡山駐屯地創立60周年記念行事	郡山駐屯地(郡山市)	郡山駐屯地広報班 024-951-0225(284)
	陸 4月27日(土)	八戸駐屯地創立57周年記念行事	八戸駐屯地(八戸市)	駐屯地司令業務室広報班 0178-28-9111(3807)
	陸 4月29日(月)	南極の氷贈呈式	A L V E(秋田市)	秋田地方協力本部広報室 018-823-5404
5月	陸 5月5日(日)	あおもり春フェスティバル(第9音楽隊野外コンサート、装備品展示等)	青森市内	第9師団司令部総務課広報室 017-781-0161(257)
	陸 5月26日(日)	会津若松市自衛隊音楽祭	会津風雅堂(会津若松市)	福島地方協力本部広報班 024-546-1919

※事前の申し込み、入場整理券等が必要なイベントもありますので、お出かけの前に問い合わせ先にご確認ください。